

# Hello! FUJISEI

No.68

まもなく、4人に1人が65歳以上という「超高齢社会」が到来するといわれていますが、このことにどの程度関心があるのでしょうか。平成22年9月に実施された「介護保険制度に関する世論調査」によると、「関心がある」人の割合が88.6%（「非常に関心がある」38.7%+「ある程度関心がある」49.8%）、「関心がない」とする人の割合が11.0%となっており、やはり介護問題への関心は高いものがあります。

介護問題は、家族の介護と自分自身の介護がありますが、自分自身が老後に寝たきりや認知症になるかもしれないと、不安に思うことがあるという人の割合は75.1%（「よくある」27.7%+「時々ある」47.4%）となっています。

また、家族が老後に寝たきりや認知症になるかもしれないという不安については、「ある」とする人の割合が77.6%でした。

それでは、仮に自分自身が介護が必要となった場合、どのようなことに困ると思うかを聞くと、「家族に肉体的・精神的負担をかける」が最も高く、以下、「介護に要する経済的負担が大きい」「収入がなくなる」が上位となっています。

性別に見ると、「家族に肉体的・

## 「超高齢社会」到来、介護への関心は？

# 家族の負担増や経済的負担の大きさに不安感

精神的負担をかける」「介護に要する経済的負担が大きい」は女性で、「収入がなくなる」は男性で、それぞれ高くなっています。

家族が介護が必要になった場合に困ると思うこと、また、現在、寝たきりや認知症の家族がいる者はどんなことに困っているかについては、「食事や排泄、入浴など世話の負担

が重く、十分な睡眠が取れないなど肉体的負担が大きい」62.6%、「ストレスや精神的負担が大きい」が62.2%と高く、以下、「家を留守にできない、自由に行動できない」(55.2%)、「介護に要する経済的負担が大きい」(54.5%)などの順となっています。

### 自分自身に介護が必要となった場合に困る点（複数回答）

